

令和6年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント

- ・平均正答率は、全国平均と県平均を上回った。

	国東市	大分県	全国
平均正答率	73.0	69.0	67.7

<観点別正答率>

観点	国東市	大分県	全国
知識・技能	75.7	71.2	69.8
思考・判断・表現	70.5	68.0	66.0

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに平均正答率は全国平均と県平均を上回った。

<領域別正答率>

領域	国東市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	63.8	60.6	59.8
書くこと	75.0	70.4	68.4
読むこと	74.4	73.8	70.7

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」とともに正答率が全国平均と県平均を上回った。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 読むこと〔3〕二(1)

- 出題のねらい：登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。
- 問題の概要：「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する。
- 正答率：国東市 63.1%・大分県 67.3%・全国 66.9%
- 学習指導にあたって
 - ・登場人物の相互関係や心情などを捉えるためには、描写に着目しながら読み進めていくことが重要である。登場人物の心情は直接的に描写されている場合もあるが、暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、想像を豊かにしながら読むことが他大切である。
 - ・系統的に指導していくことが重要である。低学年においては、挿絵を手掛かりにして読んだり、役割を決めて演じたりすることなどを通して、内容の大体を捉えることが考えられる。中学年においては、場面と場面のつながりを意識したり、登場人物の気持ちの変化に着目したりすることなどを通して、複数の叙述を基に登場人物の行動や気持ちなどについてとらえることが考えられる。高学年においては、登場人物の行動や会話などについて、登場人物相互の関係と結び付けながら想像したり、場面の様子や登場人物の心情の関係に着目したりすることなどを通して、描写を基に登場人物の相互関係や心情などについて捉えることが考えられる。

(2) 話すこと・聞くこと〔1〕二(2)

- 出題のねらい：資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。
- 問題の概要：オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する。
- 正答率：国東市 54.4%・大分県 53.5%・全国 52.9%

□学習指導にあたって

- ・相手や目的を意識しながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫するように指導することが重要である。音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定することが大切である。その際、目的や意図に応じて資料の順番を変えたり、適切な時間や機会での資料の提示の仕方について検討したりする時間を設けると効果的である。
- ・実際に交流する場面では、聞き手のうなずきや表情などの反応にも目を向け、適切な時間や機会を判断し表現することのよさに気付かせていくことが大切である。

3 指導の改善のポイント

(1) 国語科の授業づくりの流れに沿って単元を構想する。

- ①単元で取り上げる指導事項を明確にする。
- ②資質・能力の育成に適した言語活動を設定する。
- ③資質・能力の定着を確認する適切な評価基準を設定する。
- ④単元の指導と評価の計画を立てる。
- ⑤支援を要する児童に対する手立ての工夫を考える。

①単元で取り上げる指導事項を明確にする

つけたい力を明確にするためには学習指導要領解説の「内容」に書かれていることを確認するとよい。学習指導要領に示された内容は一つの指導事項に複数の指導する内容が含まれているため、それぞれの単元で指導しなかった内容については該当学年の別の単元でもれなく指導する必要がある。その際、マトリクス型年間指導計画を活用するとよい。

②資質・能力の育成に適した言語活動を設定する。

国語科における言語活動とは「話すこと・聞くこと」や「書くこと」「読むこと」に関する基本的な国語の力を定着させるため、言葉によって理解し思考し表現するという過程を経る活動である。言語活動は手立てであり大事なものは「資質・能力」の育成である。指導事項（目標）と言語活動（手立て）を往還させ、つけたい力に最適な言語活動の設定をすることが大切である。身につける言葉の力を想定して指導者がやってみる（モデルを作成してみる）ことで子どもの実態にあっていないかを確認したり子どものつまずきを想定したりすることも大切である。

③資質・能力の定着を確認する適切な評価基準を設定する。

単元の評価基準を設定した後、実際の学習活動を踏まえて各時間の「概ね満足できる状況」（Bの児童の姿）を具体的に想定しておく。

④単元の指導と評価の計画を立てる。

各時間の具体的な学習活動及び単元のどの段階でどのような評価基準に基づいて評価するのかを明らかにする。

⑤支援を要する児童に対する手立ての工夫を考える。

質問調査「国語の授業の内容はよく分かりますか」を見ると「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童が9%いる。一人ひとりの困りを想定して、支援方法を考えることが大切である。

(2) 系統的な指導を意識する。

これまでに身につけてきた資質・能力を把握した上で、単元で育成を目指す資質・能力を明確にすることが大切である。つまり、前学年の（または前単元の）指導内容を受けて何を新たに身につけさせるのかを明確にして指導することが大切である。

(3) 学習用語を確実に理解させる。

必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。そのために、小学校で使用する教科書に掲載されている学習用語は、その学年で確実に理解させることが大切である。既習の用語は授業で使わせ、指導者が曖昧な言葉を使わないようにしなければならない。

4 教科を越えて取り組むべきこと

(1) 漢字や語句、文法、表現技法等の習得

漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。また、国語科以外の教科の時間に既習の漢字を使用するように指導することも大切である。

(2) 読書や各教科における学校図書館の活用

- ・様々な力を下支えするものとして活字に親しむことが必要である。特に、SNSを使うことで自分に適した情報が短い言葉で出てくる経験をしている児童が増えていることが考えられることから、学校司書等と連携しバランスのよい読書指導をすることが重要である。
- ・学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を活用することも求められる。質問調査からは新聞を読む頻度が少ない実態が明らかになっている。学校図書館にある新聞の活用を積極的に行ったり、新聞を児童の見えるところに掲示し、自然と情報が入ってくる環境を作ったりしていきたい。

(3) 全国学力・学習状況調査についての研修や情報共有

全国調査の結果分析を各学校の指導の充実に活かすために、学校全体で情報を共有し、授業改善のベクトルを揃えることが重要である。

◆参考資料：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

未来を創る学力向上支援事業に係る未来を創る授業力向上協議会資料（R5・R6年度）